

2025年度の保健学科・保健学研究科の活動実績を報告します！

1) 国際保健推進室

医学部保健学科・保健学研究科は、国際社会で活躍する人材の育成に積極的に取り組んでいます。

GFL学生の海外留学

2025年度の保健学科GFL生は、オーストラリア、フィリピン、モンゴル、韓国などへの留学を延べ42回実施し、留学率は140%に達しました。保健学科GFL生は、学部内でも特に海外経験が豊富で、留学に最も積極的な学生たちです。1年生はオンライン留学や大学の公式プログラムに参加し、2・3年生になると、世界の課題解決を目指して自ら留学プランを立案・実施します。さらに4年生は、民間団体などから自ら留学資金を獲得し、より発展的な学びを行っています。その結果、保健学科GFL生は、他の国立大学や国際系大学の学生と比べても、国際的な親和性・協調性が高く、自信に満ち、課題に立ち向かう力が非常に優れていることが全国調査から明らかになっています。

高校生の皆さん、ぜひ群馬大学に入学し、GFLプログラムの扉をたたいてください。



海外留学（医学部保健学科・保健学研究科）

学生派遣

時期	相手先など	参加人数
2025/08	フィリピンのサンラソロ病院	1
2025/09	モンゴル国立医科学大学	2
2026/03	フィリピン大学・世界保健機関	3
03	カンボジア研修	5
03	リーズ大学（英国）	2
03	The 2nd Global Student IPE Leader Camp	7

（本学で主催、4か国、7大学が参加、韓国で実施）

学生受入

時期	相手先など	参加人数
2025/06	モンゴル国立医科学大学	11
06	ワシントン大学（アメリカ）	3
07	Yuhan大学（韓国）	10
09	フィリピン大学	4
09	IMU大学（マレーシア）	1
10	モンゴル国立医科学大学（10か月）	6
10	春海保健大学（韓国）	3
2026/01	Ishou大学（台湾）	3
03	リーズ大学（英国）	1

キャンパスの国際化

外国人留学生 39名

（2025年10月現在）

活動内容	活動時期	参加人数
昭和English Cafe	年60回	743名（延べ人数）
Student Interprofessional Education Committee (SIPEC)	毎週	10名



群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。今回は、保健学研究科附属研究・教育センター内の4つの推進室（国際保健、地域保健、高度専門職養成、多職種連携教育）と高度保健学人材開発センターの2025年度の活動をまとめて報告いたします。

私たちの活動をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力をお願いいたします。⇒

お問合せ先：保健学研究科長 齋藤貴之（tsaitoh@gunma-u.ac.jp）



2) 地域保健推進室

新たに18名の学生保健サポーターが誕生しました

学生保健サポーターとして活動するには、まず、必要な知識を身につけるための養成コースを受講してもらうことになります。2025年度は、看護学専攻15名、作業療法学専攻2名、理学療法学専攻1名、計18名の学生がコースを修了し、サポーターとして認定されました。子ども食堂の活動に関する講話では、「学生であるからこそ子ども達から悩みを打ち明けられやすく、寄り添ってあげられやすいと思うので、ボランティア活動を積極的に行っていきたいと思った」等、やる気活動への意欲が高まっていました。修了後にさっそくサポーター活動に参加した学生もおり、今後もぜひ様々な活動に挑戦し続けてほしいと思います。



学生保健サポーターの活動の幅が広がっています

学生保健サポーターは、前橋市社会福祉協議会など、地域の保健・福祉を支える関係者や自治会の方々と協働させていただきながら、様々な活動に取り組んでいます。前橋市若宮地区における「群大保健学まちなか交流サロン」をはじめ、地域食堂や自治会の子ども会育成会が運営するクラブ等でイベントの企画・運営をさせていただいています。保健学科の専門性を活かした『健康チェック』では、「専門的な測定ができて貴重だった」、子ども向けのイベントでは、「楽しかった！また参加したい！」といったお話をいただくなど、ご好評をいただいております。



修了生ネットが秋の散歩道で健康ブースを出展しました

2025年10月25・26日、本学昭和キャンパスで開催された地域貢献イベント「秋の散歩道」で健康ブースを出展しました。看護学がInBodyで体組成を、生体情報検査科学が血管年齢を、リハビリテーション学が体力測定・運動機能測定を行いました。



測定は、各専攻の修了生、院生、学生トレーナークラブの学部生がそれぞれの専門性を活かして実施しました。世代が異なる者が協力して測定することで、先輩・後輩との交流にもなりました。

当日は大好評で各30名の予約枠が、開始とともに一杯になるほど、多くの来場者でにぎわいました。

測定したデータはお持ち帰りいただき、来場者の皆さんの健康増進の動機づけに貢献しました。

修了生ネットでは今後も院生・学部生と交流を深め、大学院の活性化や修了生ネットの仲間を増やしたいと思います。

3)高度専門職養成推進室



Websiteはこちら

<https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



主な事業

当推進室は主に2つの事業を展開しています。

- I.エビデンスのある看護実践ための情報発信地とします
- II 研究と実践の統合により、患者様・利用者様・ご家族の方にエビデンスのある質の高い看護ケアを提供します。

2025年度の実績

- ◆情報発信として、講演会を2回開催いたしました。
第14回講演会「あなたにもできる国際共同研究！」
国際共同研究の重要性とTo doを学ぶことができ、国際共同研究を一步踏み出すための示唆を得ることができました。



群馬大学看護学 看護研究実践統合センター
第14回講演会
あなたにもできる国際共同研究！

第15回講演会「臨床と教育がつなぐ看護研究」

テキストマイニングの方法を学ぶとともに、Best Nurse Researcher 賞「臨床の看護師と大学教員との共同研究の一例:化学療法によるしびれと活動量の関係」(群馬大学大学院保健学研究科 准教授 京田亜由美)、研究活用賞受賞研究発表3演題の講演がありました！
本賞を機に、大学院に進学した人もいます！

◆保健学実践研究力向上プログラム

2025年度は4名が履修し、2年間の履修期間のところ、1名が1年間で終了しました！

研究を実践の場で活用し、実践の質を向上させることが目的のプログラムです。実践で生じた疑問や課題を、研究によって解決できる人材の育成をしています。次年度は、2名の履修が予定されています。

◆専門看護師(CNS)と教員間のネットワークを活用したリカレント教育の実施

◆女性研究者への支援

2025年度 ダイバーシティ推進チャレンジ支援(10万円)を獲得しました。研究時間の確保、教員のピアサポートなどを行いました。

4) 多職種連携教育推進室

若手教員の海外派遣



フィリピン大学マニラ校
看護学部の先生方と

私は、群馬大学多職種連携教育研究研修センター（JPN-89）の支援を受け、若手教員として、2025年11月から2026年5月までの半年間の予定で、フィリピン大学マニラ校看護学部にて海外派遣研修に参加しています。現在、災害看護学および多職種連携教育に関する共同研究に取り組み、研究手法やフィリピンにおける研究倫理を学んでいます。また、地域看護学の授業や実習に参加し、現地の保健医療体制や看護学教育や多職種連携教育の方法・内容を学んでいます。

（看護学講座 助教 松井理恵）

WHO及び関連機関への人材派遣

群馬大学は2010年よりWHOおよびその関連機関への教員派遣を行っており、昨年度までに9名の若手教員がWHOに派遣されました。

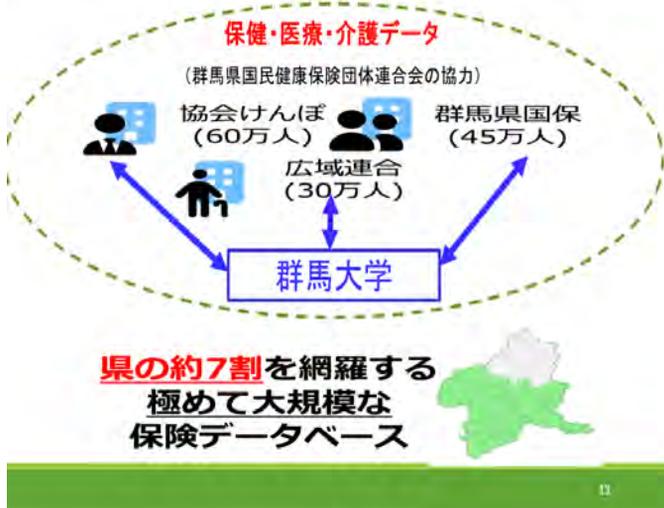
派遣年	派遣先	部署	派遣期間
2010	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	保健人材(HRH)	6か月
2011	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	保健人材(HRH)	6か月
2013	WHO（マニラ、フィリピン）西太平洋地域事務局	保健人材(HRH)	3か月
2013	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	世界保健医療人材連合Global Health Workforce Alliance	6か月
2014	WHO（マニラ、フィリピン）西太平洋地域事務局	保健人材(HRH)	6か月
2016	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	サービス提供と安全(Service Delivery and Safety)部門	6か月
2018	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	患者安全(Patient Safety), 感染予防(Infection Prevention)	6か月
2019	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	患者安全(Patient Safety), 感染予防(Infection Prevention)	9か月
2024	WHO（マニラ、フィリピン）西太平洋地域事務局	保健政策(Health Policy and Service), 長期ケア(Long-term care)	6か月



5) 高度保健学人材開発センター

大学と自治体との協働：日本初の「地域共創群馬モデル」発信

これからの取り組み



2025年10月17日に群馬大学地域共創シンポジウムを開催。副センター長の佐藤由美教授が「群馬県と協働した保健ビッグデータ解析による健康施策の推進」を報告しました。日本総合研究所の藻谷浩介様からは、行政、保険者、大学がプロジェクトの計画、実施、評価まで一体化して実施するプロジェクトとして、日本初の「群馬モデル」として発信をというお言葉をいただきました。

さらに、健診データ分析等業務「市町村モデル事業」として太田市と嬭恋村と協働して、健康課題を抽出し、市町村と連携する事業を開始しました。



ヘルスビッグデータで災害時に支援が必要な方を平時から支える



第84回日本公衆衛生学会

災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者や患者さんです。群馬大学は、**COI-NEXT共創の場プロジェクト「災害後も中長期にわたり健康でいられる社会の実現」**に参画しています。ヘルスビッグデータを活用して地域の健康課題を可視化し、災害時に支援が必要となる方々を把握し、行政・地域との連携を進めています。2025年10月30日、静岡県で開催された第84回日本公衆衛生学会総会において、共創の場プロジェクトを紹介しました。また、シンポジウムでは大川助教が「**公衆衛生学におけるAIや機械学習の活用**」をテーマに講演し、**行政との連携の「群馬モデル」**に大きな注目を浴びました。



シンポジウム